

1 「外国語活動」における「話すこと[やり取り]」の目標

イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

2 単元名 Unit7 「What do you want?」 (Let's Try!2 文部科学省)

3 単元を通した「話すこと[やり取り]」における目標及び評価規準

(1) 目標

家族に喜んでももらえるケーキのデザイン図を作るために、食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、伝え合っている。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
野菜や果物などの食材の言い方や What do you want?、I want～. など欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。	家族に喜んでももらえるケーキのデザイン図を作るために、欲しい食材などを尋ねたり答えたりして伝え合っている。	家族に喜んでももらえるケーキのデザイン図を作るために、欲しい食材などを尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、欲しいものを尋ねたり答えたりする活動を通して、What do you want? や I want～. などの表現に慣れ親しむ単元である。また、欲しいものを伝え合う場面では、本単元の言語材料だけでなく、児童がこれまでに慣れ親しんできた語彙や表現も用いることで、より自然なやり取りを目指す。これらの活動を通し、児童が二往復以上のやり取りをする中で、コミュニケーションを図る楽しさも味わうことができるようになっている。このことから、本単元はこれまでに慣れ親しんだ知識・技能を活用し、児童の思考力、判断力、表現力等を育てるのに適した単元であると考ええる。

(2) 児童観

本学級の児童に、外国語活動に関する意識調査(令和5年*月*日実施, 第4学年*組*名)を行った。「あなたは、英語で自分の本当の気持ちや考えを言えていますか。」という項目には、*名の児童が「言えている。」と回答した。しかし、パフォーマンステスト(令和5年*月*日実施, 第4学年*組*名)では、「I like～.」という表現を用いて自分の好きなものを伝えることができた児童は*名であった。「I like～.」という表現は、3年生の時から繰り返し練習し、パフォーマンステスト前の単元でも取り扱った表現である。これらのことから、児童の意識と実態には差があることや、十分に慣れ親しんできた表現であっても、単元を超えて活用することに課題があることが明らかとなった。

(3) 指導観

本単元では、これまでに慣れ親しんできた表現も用いて、自分の考えや気持ちを伝え合う力の素地を育てることが主なねらいである。そこで、様々な表現を児童の必要に応じて復習できるよう、スタディ・ログを活用していく。まず、授業の初めにスタディ・ログを見て、前時までの復習をすることで、自信をもって本時の活動に取り組めるようにする。言語材料を練習したり口慣らしをしたりする段階では、教師の保存した手本の動画やこれまでに慣れ親しんだ表現の動画を、必要に応じて活用できるようにする。そして、児童同士が繰り返しやり取りを行う上で、スタディ・ログを活用し、自分自身や友達の発話、教師のモデルを必要に応じて聞

けるようにする。終末には、振り返りの中でグッバイチャレンジとして ALT とやり取りを行う。その様子を録画し、スタディ・ログとして記録に残したり、動画を見ながら振り返りを行ったりする。さらに、次時の復習活動や主活動にも活用する。このように、様々な表現に慣れ親しみ、児童が自分の考えや気持ちを伝えることができるようにしていきたい。

5 単元の指導計画（5時間扱い）（○：評定に用いる評価、●：指導改善につなげる評価）

時間	学習内容・活動 (■：ねらい、丸数字：言語活動、※評価方法)	知	思	態	備考
1	■単元のゴールを知り、食材の言い方を知る。 ①教師と児童間でやり取りをする。※観察	●		●	・本単元の見通しをもち、本時に必要な単語や表現を考えるために、単元末に行うケーキの紹介をする。
2	■欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ①教師と児童でやり取りをする。 ②児童間で欲しいものを尋ねたり答えたりする。《本時の流れ》 (1)Warm-Up（おはじきゲーム） ・教師が指定した語が発音されたら、おはじきを取る。 (2)Teacher Talk ・担任教諭と ALT のやり取りを聞き、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に気付く。 (3)言語活動① ・What do you want?、I want～. を使って、欲しい絵を渡したり、受け取ったりする。 (4)Chants (5)言語活動② ア 活動のルールを確認する。 イ 必要に応じて食材の言い方を練習する。 ウ やり取りをし、必要なカードを集める。 ※観察 (6)本時の学習を振り返る。 ア 教師とグッバイチャレンジを行う。 イ 撮影した動画を観ながら、本時の振り返りを記入する。※スタディ・ログ	●		○	・聞く活動の際には、聞く視点を明確にするために、音声途中で止めたり、児童とやり取りをしたりしながら進める。 ・児童の理解を促すために、写真やジェスチャーを用いる。 ・表現が分からないときは、スタディ・ログを観るよう促す。 ・児童間でやり取りをする中で、間違いや困っている児童が多い場合には、活動を途中で止め、練習時間を確保する。 ・グッバイチャレンジでのやり取りと振り返りを一緒にスタディ・ログに蓄積していくことで、児童自身の振り返りや、教師の評価に活用できるようにする。
3	■欲しいものを尋ねたり答えたりしながら、二往復以上のやり取りを行う。 ①児童間でやり取りを行う。※観察		●	○	
4	■家族に喜んでもらえるケーキのデザイン図を作るため、欲しい食材を尋ねたり答えたりし、伝え合う。 ①ケーキのデザイン図に必要な材料カードを集める。※観察、スタディ・ログ	○	○	○	・店のカードが足りない時には、店員役の児童が I want～. の表現を使って、ALT からカードをもらう。 ・表現が分からないときは、スタディ・ログを観るよう促す。 ・担任教諭は、活動を見守りながら、困っている児童を支援する。

5	■相手に分かりやすいように、自分のケーキについて伝え合う。 ①自分で考えたケーキについて伝え合う。 《本時の流れ》 (1) Warm-Up ・ Chants ・ キーセンテンスゲーム (2) Teacher Talk ・ 教師のケーキ紹介をもう一度聞き、紹介するときに必要な表現に気付く。 (3) 言語活動① ア 練習を行う。 イ 発表者、撮影者、聞き手に分かれ、グループ内で自分のケーキを紹介し合う。(役割は交代していく。) ※観察 (4) 本時の振り返りを行う。 ・ 言語活動①で撮影した動画を観ながら、本時の振り返りを記入する。 ※スタディ・ログ	●	○	・ Teacher Talk の際に、指さしやジェスチャーを用いることで相手に分かりやすくなることを確認する。 ・ 発表に対する不安を和らげるために何度でも挑戦できることを伝える。 ・ 聞く目的を明確にするため、友達の発表の中で同じ食材やよいところを探すように助言する。 ・ スタディ・ログには、一番良いと思った動画を入れるように伝える。
---	--	---	---	--

6 スタディ・ログによるパフォーマンス評価について

(1) パフォーマンス評価の場面

欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合い、ケーキのデザイン図に必要な材料カードを集める。(第4時)

(2) 観点別評価メモの基準

	児童の様子
知識・技能	・ 日本語と外国語の音声の違いに気付き、様々な食材の言い方に慣れ親しんでいる。 ・ 食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に十分慣れ親しんでいる。
思考・判断・表現	・ スタディ・ログ等を活用し、これまでに慣れ親しんできた表現を用いながら、相手の欲しいもの尋ねたり、自分の欲しいものを答えたりし、くわしく伝え合っている。 ・ 動作を交えたり、相手の言ったことを繰り返したりしながら、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を用い、相手の欲しいものを渡したり、自分の欲しいものを手に入れたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	・ スタディ・ログ等を活用し、これまでに慣れ親しんできた表現を用いながら、相手の欲しいもの尋ねたり、自分の欲しいものを答えたりし、くわしく伝え合おうとしている。 ・ 動作を交えたり、相手の言ったことを繰り返したりしながら、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を用い、相手の欲しいものを渡したり、自分の欲しいものを手に入れたりしようとしている。

※この評価メモの基準は、教師の指導に生かすものであり、児童には公表しない。

※児童には Can-Do リストを提示し、自己の学習に生かせるようにする。